

「平成29年度 奈良県宣言」振り返り

宣言者	宣言	振り返り内容
知事 荒井 正吾	平成29年は色々なテーマが突ったり、決まったりする年のように思っています。お餅もよく練り上げるとよい味がでてきますが、これまで準備してきたことに思いを込めて仕上げ、味のよいお餅を食べることができたら幸いです。	職員の皆様の奮闘努力のお陰で、平成29年度の仕上がりもよい味がでてきているように思います。形が目に見えないものでも数字でよい成績が分かるのも嬉しいことです。ただし、まだまだ不十分なところも目につきますので、気がついたところから念入りに手を入れていきたいと思えます。
副知事 村井 浩	<p>「住んでよし」「働いてよし」「訪れてよし」の奈良県の実現に向け、県経済の活性化、県民の方々のくらしの向上、南部・東部地域の振興などを柱とした各分野の施策を、より着実に進めたいと考えています。</p> <p>また、それらの施策展開の下支えとなる健全で持続可能な行財政基盤の確立に尽力します。</p> <p>併せて、県民の皆様の期待にしっかりと応えられるよう、県職員のより働きやすい職場環境づくりにも取り組んでまいります。</p>	<p>県経済の活性化、県民の皆様のくらしの向上、南部・東部地域の振興など、29年度当初に掲げた、県政各分野の施策は、概ね順調に進んでおり、またそれを支える県行財政基盤確立も良い方向に向かっています。引き続きこれらの取組を継続することが肝要です。</p> <p>一方、台風21号等の災害復旧、働きやすい職場環境づくり(県庁を含む)をはじめとする喫緊の課題については、なお一層の注力が必要と考えています。</p>
副知事 一松 旬	<p>健全で持続可能な行財政基盤の確立を図りつつ、「奈良モデル」を深化させ、市町村と連携した県域行政を充実します。</p> <p>その際、医療提供体制整備、医療費適正化、国民健康保険の県単位化など負担面も視野に入れた医療・介護一体の取組を推進します。</p> <p>「国民文化祭・全国障害者芸術文化祭」をはじめ、文化・観光・教育・福祉面の取組と併せ、女性・若者・障害者・高齢者など県民一人ひとりが活躍し、郷土に誇りと愛着を持てる奈良県の実現を目指します。</p>	<p>地方消費税の清算基準の見直しを実現し、その増収分を教育分野で県民に還元するとともに、「奈良モデル」の到達点として、全国随一の国民健康保険の県単位化を実現しました。県が医療費適正化に主体性を発揮する計画・体制づくりを行い、県立病院機構の経営改革にも取り組みました。</p> <p>文化・観光面では、歴史文化資源の保存・活用のため、(仮称)国際芸術家村の整備推進、国宝・重文の公開ルールの改訂の実現、文化財保護部門の知事部局移管の道筋づくり、「春日若宮おん祭」の海外出展や仏像海外展示の企画等に取り組みました。インバウンド観光戦略20年ビジョンづくりとそれを見据えた受入環境整備等を進め、住宅宿泊事業の解禁への適切な対応を図りました。</p>

「平成29年度 奈良県宣言」振り返り

宣言者	宣言	振り返り内容
<p>知事公室長 枘井 和也</p>	<p>全庁的なマネジメントサイクルにより、県政各般の政策を実現するとともに、県地方創生総合戦略を着実に推進します。政策形成のため、各種統計データの整備や県・市町村の統計リテラシー向上に取り組めます。</p> <p>様々な広報ツールや地域フォーラムにより、県政情報をわかりやすく、正確かつスピーディに県民の皆様にお届けするとともに、皆様からの声を政策に活かします。</p> <p>国内外の地方政府等との政策議論や交流の推進に努めます。また、県内在住の外国人の皆様を支援します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・政策体系の見直しや、具体的な政策目標の設定等を行うことにより、マネジメントサイクルの充実を図るとともに、地方創生総合戦略の進捗チェックを行いました。 ・奈良スタットや統計研修を充実し、県・市町村の統計リテラシー向上に努めました。 ・地域フォーラムを県内各地で全7回開催するとともに、県政のSNSやスマホアプリを積極的に活用するなど、県民の皆様への県政情報の発信に努めました。 ・東アジア地方政府会合の初めての海外開催(中国四川省成都市)や、友好提携地方政府との交流等に取り組めました。
<p>危機管理監 中 幸司</p>	<p>被災時に支援拠点となる陸上自衛隊ヘリポートの誘致に粘り強く取り組むとともに、県広域防災拠点・消防学校の整備構想を推進します。</p> <p>また、県内自治体等との連携のもと、防災リーダーの養成や防災訓練の支援などにより、自主防災組織の育成に努め、地域防災力の向上を図ります。</p> <p>さらに、消防力の強化、救急搬送の迅速化を図るとともに、平成29年3月に策定した「安全・安心の確保のための奈良県基本計画」を警察等と協働しながら推進し、「日本一安全で安心して暮らせる奈良」の実現を目指します。</p>	<p>陸上自衛隊ヘリポートなどの展開拠点に関し、防衛省との共同調査を進めるとともに、県広域防災拠点・消防学校の整備に向け、ヘリポート規模の調査をはじめ、物資拠点、ベースキャンプ地などの機能について検討を行いました。</p> <p>また、地域防災力の向上のため、防災リーダーの養成や実践的な防災訓練の支援など、自主防災組織の育成に努めました。</p> <p>さらに、消防職員の資質向上をめざし、消防学校の教育カリキュラムを充実させたほか、消防機関と医療機関の連携により救急搬送時間を短縮させるなど、消防力の向上を図るとともに、「安全・安心の確保のための奈良県基本計画」を警察との協働のもとに、犯罪抑止と交通事故防止に向けた施策を実施しました。</p>
<p>総務部長 辻本 浩司</p>	<p>多様化する行政需要に的確に対応するため、組織面では、県庁が持つパフォーマンスを最大限に活かせるよう、県職員の人材育成や組織運営の活性化など、組織マネジメントに取り組めます。</p> <p>財政面では、県税収入や有利な財源の確保に努めるとともに、県勢の未来を展望した主要プロジェクトを堅実に進める一方で、持続可能な財政運営を念頭に、財政規律を堅持し、選択と集中を徹底するなど、財政健全化に向けた取組を推進します。</p>	<p>テレワークやフレックスタイムの導入による多様な働き方の勧奨や、「超過勤務縮減プロジェクトチーム」による勤務時間管理の徹底、メンタルヘルス対策の推進など、県庁職員の働き方改革を進めました。</p> <p>新年度の予算編成では、県勢の発展の礎となる大宮通り新ホテル・交流拠点の整備など、主要プロジェクトを着実に推進する一方で、減債基金を活用して県債100億円を繰上償還するなど、財政健全化にも取り組めました。</p>

「平成29年度 奈良県宣言」振り返り

宣言者	宣言	振り返り内容
<p>地域振興部長 村田 崇</p>	<p>「奈良県文化振興大綱」に基づき、歴史文化資源の活用をはじめ、記紀・万葉プロジェクトの推進、国民文化祭・全国障害者芸術文化祭の開催などの芸術文化イベントの充実、「(仮称)奈良県国際芸術家村」の拠点整備などに取り組みます。</p> <p>「奈良県教育振興大綱」に沿った就学前教育など教育の振興、「第2次奈良県エネルギービジョン」に沿ったエネルギー政策の展開を図ります。</p> <p>県域水道ファシリティマネジメントや市町村の事務・行政サービスの共同化の推進など、市町村との連携・協働の仕組みである「奈良モデル」を一層深化・発展させます。</p>	<p>奈良の仏像海外展示の準備を進めるとともに、記紀・万葉や聖徳太子プロジェクトによるイベントや「ムジークフェストなら」、また国民文化祭と全国障害者芸術文化祭を全国で初めて一体開催するなど、芸術文化イベントの充実に取り組みました。また、「(仮称)奈良県国際芸術家村」については造成工事に着手しました。</p> <p>「奈良県教育振興大綱」に沿った「奈良県版就学前教育プログラム」を策定するなど教育の振興に努め、「第2次奈良県エネルギービジョン」に沿った各種取組への支援を実施しました。</p> <p>「奈良モデル」についても、県域水道一体化構想を提示し、今後の推進体制・スケジュールを定めました。さらに取組を進めます。</p>
<p>南部東部振興監 山本 尚</p>	<p>奥大和地域の地勢を活かしたスポーツイベントや音楽・芸術イベントの開催、雑誌・WEB・映像等による地域の魅力の発信などにより、「交流」を促進してまいります。</p> <p>また、民間企業や市町村とも連携し、地域の特産物、自然環境などの豊かな資源を活かしたビジネスの創造など、地域の「新たな仕事づくり」や既存の「生業の継承」にも取り組み、「移住・定住」を促進してまいります。</p>	<p>「弘法大師の道」を舞台としたトレイルランニングレース、吉野産材をふんだんに使用した五條市体育館「シダーアリーナ」での子ども柔道大会の開催、天川村洞川温泉街全体がステージとなる「えんがわ音楽祭」、アーティストインレジデンスとして旧木造小学校舎を活用した「WSMAワズマ」の開催など、奥大和地域の特色を活かしたイベントを開催しました。</p> <p>地域での起業を支援するプロジェクトとして、「狩猟と獣肉処理」や「伝統野菜の継承・食の提供」などに取り組みました。</p> <p>また、地域住民に寄り添い健康管理に寄与する活動を行うコミュニティナースの導入実験にも取り組みました。</p>
<p>観光局長 森田 康文</p>	<p>年間を通じて奈良への観光客、特に宿泊客が増えるよう、オフシーズンのイベントの充実や、奈良の奥深さを感じてもらえる旅行商品の造成に努めるとともに、顧客を明確にした国内外へのプロモーションを強化します。また、お越しいただいた方々の満足度を向上させ、リピーターとなっただき、さらに宿泊客数と観光消費額の増加につながるよう、宿泊施設、サービスの質と量の充実を促すほか、Wi-Fi環境、観光案内サインなど、受入環境の整備を進めます。</p>	<p>観光客の満足度を高められるように、宿泊施設をはじめ観光地での案内標識やWi-Fi環境の整備を進めました。また、宿泊施設の利用機会を増やすことになる住宅宿泊事業の適正な運営を確保するための条例を制定しました。</p> <p>外国人観光客の一層の増加を実現するため、(仮称)奈良インバウンド観光戦略20年ビジョンの素案をつくりました。</p> <p>奈良の多彩な魅力について首都圏や海外へ積極的なプロモーションを実施し、冬の奈良大立山まつりを充実させて開催しました。</p>

「平成29年度 奈良県宣言」振り返り

宣言者	宣言	振り返り内容
健康福祉部長 土井 敏多	<p>県域の福祉の充実では、平成28年12月に開始した「事業所認証制度」の普及・拡大等による福祉・介護人材の確保をはじめ、全国1位に躍進した障害者雇用率の更なる向上、平成29年4月施行の「奈良県手話言語条例」の推進、地域生活に必要な医療・介護・生活支援等を提供する地域包括ケアシステムの構築等に取り組めます。</p> <p>健康長寿の推進では、健康寿命日本一を目指し、市町村等と連携して、がん検診・特定健診、運動、食育、介護予防等を推進するとともに、国保の県単位化や医療費適正化等に取り組めます。</p>	<p>県域の福祉の充実では、福祉・介護人材の確保に向けて、「事業所認証制度」について、新たに179事業所を認証しました。障害者雇用率が2年連続で「全国1位」となったほか、「奈良県手話言語条例」の普及啓発等に努めるとともに、高齢者等の入退院を調整するルールの西和地域への拡大、生活支援コーディネーターの養成等、地域包括ケアシステムの構築を推進しました。</p> <p>健康長寿の推進では、健康寿命日本一を目指して、「なら健康長寿基本計画の中間見直し」をはじめ、「高齢者福祉計画及び第7期介護保険事業支援計画」、「食育推進計画」等を策定し、来年度以降の施策の方向性等を示しました。国保の県単位化については、市町村と協議を重ね、「奈良県国保の運営方針」を策定するとともに、医療費適正化を推進する「第3期医療費適正化計画」を策定しました。</p>
こども・女性局長 福西 清美	<p>社会全体で結婚、妊娠・出産から子育てまで切れ目なく支援するため、企業・団体等との連携による結婚応援や市町村による子育て支援策の拡充に取り組むとともに、女性が能力を十分に発揮して活躍できるよう、大学や企業等と連携した取組を推進します。</p> <p>子どもの健やかな育ちのために、保育の量的拡大による待機児童の解消や保育の質の向上を図ります。</p> <p>また、すべての子どもがその将来に夢や希望を持って成長していけるよう、経済的困難及び社会生活上の困難を抱える子どもを支援する取組を推進します。</p>	<p>企業やNPO、行政等、社会全体での結婚から子育てまでの切れ目ない支援を推進するため、「なら結婚応援アクションプラン」(平成29～31年度)の策定や「地域の多様な人材を活用した子育て支援策」の検討等を実施するとともに、企業・事業所における女性人材の確保や定着を目的に「なら女性活躍推進倶楽部」を設立しました。</p> <p>また、保育所等の施設整備への支援や企業主導型保育事業の推進により、保育の量的拡大を図るとともに、保育士人材バンクにおける人材確保や保育の質の向上のための研修を実施しました。</p> <p>さらに、複雑・困難化する児童虐待に対応するため、県こども家庭相談センターの体制強化を図るとともに、こどもが将来に希望を持って健やかに成長できるよう、地域での居場所を提供する「こども食堂」の取組を推進しました。</p>
医療政策部長 林 修一郎	<p>団塊の世代の高齢化が進み、医療ニーズが変化しつつあります。平成28年春に策定した「奈良県地域医療構想」にあるとおり、これからの医療には、高度・救急医療ばかりでなく、患者の生活上のニーズに寄り添い、生活を支える「地域包括ケア」の充実が求められます。ニーズの変化に対応し、効率的で質の高い医療を確保できるよう、平成30年度から6年間の具体的な方針を、「第7次保健医療計画」としてとりまとめるほか、医療・介護関係者の協力を得ながら、取組を進めます。</p>	<p>これまでの取組の成果が、救急搬送時間の短縮、がん死亡率の低下、医師数の増加など数字に現れてきました。今後に向けて、医療関係者との間で、救急や高度医療に責任を持つ「断らない病院」と高齢者の生活全体を支える「面倒見のいい病院」を目指して機能の向上を図るといった認識の共有ができました。今年度策定した「第7次保健医療計画」に基づき、医療・介護関係者の協力を得ながら、さらなる取組を進めます。</p> <p>また、整備を進めてきた奈良県総合医療センターが、平成30年5月1日に移転開院することにより、救急医療、周産期医療、がん医療等の充実を図ってまいります。</p>

「平成29年度 奈良県宣言」振り返り

宣言者	宣言	振り返り内容
<p>くらし創造部長兼景観・環境局長 梶田 斉志</p>	<p>誰もが運動・スポーツに親しめる環境づくりに向け、スポーツ医科学に基づく幼児運動プログラムの開発・普及を図るとともに、スポーツイベント等の開催や総合型地域スポーツクラブの活動支援などを推進します。また、東京オリンピック・パラリンピック等の国際大会を視野に入れ、引き続きトップアスリートの育成やキャンプ地招致に取り組んでいきます。</p> <p>きれいな奈良県づくりに向け、きれいに暮らす奈良県スタイル推進協議会(平成28年12月設立)で策定した行動計画に掲げる「大和川のきれいな化」、「奈良らしい景観づくり」、「循環型の生活スタイル」の施策・事業を多様な主体の連携・協働により推進します。</p>	<p>近畿大学と連携して幼児運動プログラムの実践・効果検証を行うとともに、市町村等と連携し年間を通じたスポーツイベントの開催や総合型地域スポーツクラブへの巡回指導、クラブ間の交流促進等に取り組みました。また、東京オリンピック・パラリンピック等に向け、県内トップクラスのジュニア選手のナショナル・トレーニング・センターへの派遣や、パラリンピックタレントの発掘・育成を行うとともに、海外チームのキャンプ地招致活動に取り組みました。</p> <p>きれいな奈良県づくりに向けは、きれいに暮らす奈良県スタイル推進協議会に、市町村・自治会・団体等が連携・協働する3つの部会(大和川重点対策支川部会(大和高田・広陵エリア)、中和幹線沿道景観部会、実践団体部会)を設置し、個別対策の実施及び更なる実践活動を誘発・促進しました。</p>
<p>産業・雇用振興部長 中川 裕介</p>	<p>投資・消費・雇用が好循環する産業構造の改革を推進するため、企業誘致に着実に取り組めます。IoTの活用など、新しい製品やサービスを創出しようとする企業等への支援を行うとともに、「奈良県小規模企業振興基本条例」の施行により、小規模企業者を支援します。また、人材育成に取り組み、県内就業を促進します。県内事業所における働き方改善を推進するため、業種ごとの課題を洗い出し、改善策の提案をとりまとめます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・トップセミナーの開催など誘致活動に取り組んだ結果、平成29年上半年期で21件の企業立地を実現しました。 ・香港で外資系ホテル誘致のためのセミナーを開催し、国内外の関係者から多くのお問い合わせをいただきました。 ・平成30年秋頃のジェトロ奈良県事務所の開設に道筋をつけることができました。 ・県内事業所の働き方改革推進のため、飲食・宿泊業など、業種ごとに課題を洗い出し、改善策を提案するとともに、11事業所に社会保険労務士を派遣し、自主的な取組を進めていただいています。
<p>農林部長 福谷 健夫</p>	<p>本県農・畜産・水産業の振興と農村地域の活性化に向け、ブランド認証制度「奈良県プレミアムセレクト」の本格的な運用、農地マネジメントによる意欲ある担い手への農地集積、首都圏や海外でのプロモーション、NAFICを核とした賑わいづくりなどを推進し、県産農・畜・水産物の高付加価値化によるブランド化、生産拡大、販路開拓を目指します。</p> <p>林業では、販路拡大に向け、奈良の木の持つ魅力の情報発信に取り組むとともに、経済性と環境保全が両立できる森林づくりの実現に向け、スイスに学んだ森林環境管理制度の導入やフォレスト・アカデミー構想の策定に取り組めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「奈良県プレミアムセレクト」について、6つの認証団体が生産した品質と味を保証した柿・イチゴ・大和牛のプレミアム品を販売しています。 ・首都圏や海外でのプロモーションとして、香港FoodExpoへの出展をはじめ、東京白金台にある「ときのもり」を拠点としたイベントの実施等を通じて、県の「食」と「魅力」を発信しました。 ・スイスに学んだ新しい森林管理のあり方について、専門家を交えて検討を行いました。 ・全国に120以上の店舗を展開している(株)サンクゼールと連携協力協定を締結し、県産の木材や農産物を使用した商品の販売等の取組を進めています。

「平成29年度 奈良県宣言」振り返り

宣言者	宣言	振り返り内容
<p>県土マネジメント部長 加藤 恒太郎 →山田 哲也</p>	<p>引き続き、住んで良し、働いて良し、訪れて良しの奈良県を実現するため、本県が進める様々な施策を下支えする社会基盤の整備、活用、メンテナンスに積極的に取り組みます。平成29年度は、京奈和自動車道(御所南IC～五條北IC)、国道168号辻堂バイパスが完成するなど道路ネットワークが広がります。また、安全・安心の観点から、大和川の総合治水を推進するための条例づくりや、土砂災害の防止に向けた取組を進めてまいります。県民の皆さん、市町村をはじめとする関係機関の皆さんとスクラムを組んで頑張ります。ご理解、ご支援をよろしくお願いいたします。</p>	<p>平成29年度は京奈和自動車道御所南IC～五條北IC間や、国道168号辻堂バイパスなど、骨格幹線道路の供用が進み、県民の皆様の利便性向上に貢献できたと考えております。 また、大和川流域の保水力低下など社会情勢の変化に対応するため、昨年10月に、流す対策、ひかえる対策、ためる対策からなる「大和川流域における総合治水の推進に関する条例」を制定し、治水対策の取組を強化しました。 さらに、橋やトンネル等のインフラメンテナンスや土砂災害特別警戒区域の指定など、県民の皆様の安全・安心の確保にも継続して取り組んでいます。 今後も県民の皆様に安心して暮らしていただけるよう、引き続き県土マネジメントに全力投球してまいります。</p>
<p>まちづくり推進局長 金剛 一智</p>	<p>「奈良モデル」により市町村と連携して鉄道駅や地域の拠点において重点的にまちづくりを進めます。都市計画、建築・住まい施策を適切・効果的に推進します。平城宮跡では県の拠点施設を完成、県営プール跡地のコンベンション施設や奈良公園内の登大路ターミナル・吉城園・高畑裁判所跡地整備、西九条佐保線・JR高架化事業を進めます。関係する皆さんと縦横に協力してしっかり取り組んでまいります。</p>	<p>24市町村とまちづくり連携協定を締結し、各地域での取組が進んでいます。平城宮跡では3月に待望の「朱雀門ひろば」が開園しました。来春オープン予定の登大路バスターミナルや、2年後にオープンする吉城園・高畑町裁判所跡地や国際コンベンション等の整備が進んでいます。西九条佐保線・JR高架整備も用地協力をいただき進んでいます。県営桜井団地の改築工事にも着手しました。引き続き奈良のまちづくりにご協力よろしくお願い申し上げます。</p>
<p>水道局長 西川 浩至</p>	<p>県域全体で水道資産を最適化する県域水道ファシリティマネジメントの取組を更に進展します。 具体的には、磯城郡3町に続く地域単位での広域化の合意形成に向け、関係市町村と積極的に協議・調整を行うとともに、水源の県営水道への転換を図るための施設整備を着実に実施します。 また、平成30年度に予定している「県域水道ビジョン」の改定に合わせて、将来の県域水道を見据えた「経営戦略」の策定を進めます。</p>	<p>磯城郡に続く広域化の取組では、上牧町、王寺町及び河合町における水道施設の共同化について、3町の合意を得て、昨年10月25日に覚書を締結しました。 また、平群町、川西町、王寺町において全ての水源を、御所市において一部の水源を県営水道に転換するとともに、川西町で県下初の直結配水を開始しました。 昨年10月に提案した「県域水道一体化構想」に基づき、県営水道と市町村水道の垂直統合による一体化に向け、市町村と協議を行うとともに、経営戦略に反映する一体化後の経営シミュレーションの検討を進めました。</p>
<p>教育長 吉田 育弘</p>	<p>奈良県の未来を創る子どもたちが生涯学び続け、自立した社会人に育つことができるよう、家庭・地域、市町村及び大学等関係機関と連携を深めながら、「奈良県教育振興大綱」に掲げられた教育委員会所管の取組を着実に実行します。 特に、子どものやる気を引き出すことができるよう、教職員が学び続けることのできる場を積極的に提供し、教職員の資質・能力の向上に全力で取り組みます。</p>	<p>「奈良県教育振興大綱」に掲げられた教育委員会所管の取組について、進行管理をより実効性のあるものにするため、「教育振興大綱推進課」を新設しました。 生涯学び続ける教員の育成を目指して、若手教員育成研修や中堅教諭等資質向上研修などの研修体系を改善・充実させるとともに、高大連携による教員養成システムを構築するため、策定委員会を開催し、高校生向け前期プログラムを策定しました。</p>